

製品名: CD135 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab00632**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 113 kDa; Observed MW: 110 kDa

抗原情報

遺伝子名	FLT3 FLT3; CD135; FLK2; STK1; Receptor-type tyrosine-protein kinase FLT3; FL cytokine receptor;
別名	Fetal liver kinase-2; FLK-2; Fms-like tyrosine kinase 3; FLT-3; Stem cell tyrosine kinase 1; STK-1; CD antigen CD135
遺伝子 ID	2322
SwissProt ID	P36888
免疫原	ヒト Flt3/CD135 の組み換えタンパク質

背景

この遺伝子は、造血を制御するクラス III 受容体チロシンキナーゼをコードしています。この受容体は、細胞外ドメインへの fms 関連チロシンキナーゼ 3 リガンドの結合によって活性化され、細胞膜上でホモ二量体形成を誘導し、受容体の自己リン酸化を引き起こします。活性化された受容体キナーゼは、その後、骨髄中の造血細胞のアポトーシス、増殖、および分化に関与する経路において、複数の細胞質エフェクター分子をリン酸化および活性化します。この受容体の恒常的活性化をもたらす変異は、急性骨髄性白血病および急性リンパ芽球性白血病を引き起こします。

研究分野

免疫学

画像データ



CD135 抗体を使用した 4T1 溶解物中の CD135 のウエスタン ブロット分析。